

「患者さんの一番の理解者になる」 腫瘍治療病棟を目指して

当院では、これまで臓器別、診療科別でそれぞれの病棟に入院し、がん診療を行っていましたが、2019年6月からがん医療に関する入院対応を一つの病棟に集約化し、初期治療から緩和治療までのがん看護、ケアを提供する運びになりました。

それまでは、乳がんを中心とした混合病棟であった北5階病棟ですが、少しずつ対応できるがんを増やしてきました。2020年8月には消化器外科のがん治療(手術)を受け入れ、現在は消化器がん全般、肺がん、乳がんの治療に携わるまでになりました。ここに至るまで多くの医師、認定看護師、他部署の看護師、リハビリ、薬剤師、栄養士に協力していただき、周術期、化学療法、緩和治療における看護を提供できるようになりました。入退院を繰り返す中で患者さんや家族を理解して関わる事ができていると思います。

当部署の目標として、「患者さんの一番の理解者になる」を掲げています。日頃から多職種

で連携を取り、目の前の問題や、今後起こりうる事を考え患者さんにとって何が一番幸せかを思いながら、日々の看護を提供しています。患者さんの幸せを強く思うあまり、時には厳しく激励し手術後の患者さんを早期から離床させるスパルタ看護師にもなります。当部署の一番の取柄は、どんな忙しい状況下であっても、痛みやつらさを見逃さず、苦痛を共感し医師、リハビリ、栄養士、薬剤師、認定看護師など多職種と協働してしっかりと向き合って対応することができるチームワークだと思います。

がんを患った患者さんや家族は告知された時から治療が終わるまで、そして治療が終わった後も、生存率などもあり不安は払拭できないと思います。がんと診断された時から安心して治療ができ、ささいな事でも一緒に考えられる場所を築いていけるよう精進してまいります。

北5階病棟師長 大城朋子

